

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870734

研究課題名(和文)越境と往来にみるエジプト人出稼ぎ者の社会的ネットワークとアイデンティティの民族誌

研究課題名(英文)Multi-sited Ethnography of Egyptian Migrants across borders in Kuwait and Canada

## 研究代表者

岡戸 真幸 (OKADO, Masaki)

上智大学・グローバル・スタディーズ研究科・研究員

研究者番号：00634338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：3年間の人類学に基づく現地調査は、エジプト人の国境を越えてグローバルに形成される出稼ぎ者の社会的ネットワークを、エジプト、クウェート、カナダを周りながら、基点を一つにせず複数現場から、エジプト人が従来故国で培ってきた家族・親族中心の社会的ネットワークが越境によって、いかに変化するかを双方向から多元的に見る試みであった。

その結果、社会的ネットワークの方向性や質、強度は、通信手段の発達や移動の容易さによって、広範囲にわたる人々の間で発達したが、それらは基点となる人々の物理的布置に左右されることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Ethnological fieldworks over three years is an attempt to plurally observe how Egyptian migrant social networks constructing globally are transformed from the family-based networks in their homeland by crossing the borders, circulating among Egypt, Kuwait, and Canada from multi-cited bilateral point of view.

As a result, although the networks developed between the migrants over a wide range of the area by rapid progress of a means of communication and easy transportation, it becomes clear that the direction, quality and strength of the networks are dependent on physical and relational place of the migrant as the starting point.

研究分野：人類学、地域研究

キーワード：エジプト クウェート カナダ 移民研究 家族・親族論 社会的ネットワーク 出稼ぎ労働者

### 1. 研究開始当初の背景

従来のエジプト人出稼ぎ者の研究はエジプトにて、または海外出稼ぎ先国にて行う事例が多く、両者を同等に考察対象にする研究は、未だ少ない。特に、アラブ圏と英語圏という異なる出稼ぎ先国を比較対象にし、分析するような研究はまだ行われていなかった。

また、調査主体である出稼ぎ者を国境にとらわれず、エジプト国内と出稼ぎ先国で本人またはその家族を調査し、彼らの社会的ネットワークを調査する試みは、動態的なネットワークの実態を把握する作業となる。それは、エジプト人の社会的ネットワークが移動によっていかに変化していくかを、一方向からではなく、彼らの故国と出稼ぎ先国の双方から分析する研究により、可能となる。

こうした調査地を複数設定し、多現場的にエジプト人の社会的ネットワークを考察対象にする試みは、グローバル状況下にある人の流れの実像を明らかにする手段になり得るのである。

### 2. 研究の目的

本研究は、エジプト人海外出稼ぎ者の社会的ネットワークを調査するために、アラブ圏からクウェートを、英語圏からカナダを選択し、彼らが出稼ぎ先国で、またエジプトとの間で構築するネットワークの異同について、人類学に基づく参与観察手法により、明らかにする試みである。それぞれの国での調査を比較分析し、民族誌として、同時代に多元的に生起するネットワークを分析するのが、本研究の目的である。

クウェートでの調査は、研究代表者がエジプト国内で行ってきた調査の対象者である出稼ぎ労働者の家族・親族成員が現地で働いているため、彼らのネットワークをエジプト国内と比較する目的がある。先行研究では、湾岸諸国は、エジプトからの短期出稼ぎ労働者が多いという報告もある [Zohry 2003]

カナダに関しては、アメリカに次ぐ長期滞在及び永住先とされているが、移民政策が充実しているにもかかわらず、アラブ系移民に関する先行研究が少ないために選択した。また、統計資料や移民政策関連資料を整理するとともに、現地にあるエジプト系団体などを訪問し、彼らの来歴を知るとともに、交友関係などを聞き取り調査し、社会的ネットワークが現地で誰を対象に、どのような範囲で構築されているかを明らかにする。

これらの調査から、エジプト人の血縁、地縁などを基盤とした社会的資源としてのネットワークが、いかに海外出稼ぎの過程で変容するかを考察する。特に、出身地から離れるほど、その人間関係は、多様になるはずであり、彼らのアイデンティティがいかに維持されるかを様々な場所において観察していく。

### 3. 研究の方法

本研究は、2013年度～2015年度までの3年間で、夏季休暇などの期間に、エジプト、クウェート、カナダを複数回訪問し、現地調査を行い、それ以外の時期は日本で、学会発表などで現地調査の報告と、現地地で得た資料や文献などの整理を行う。3か国の海外調査とそれぞれ調査報告の繰り返しを本研究期間中に行うことで、得た情報を速やかに整理し、他者との議論の結果を次の現地調査に活かす研究活動の循環を構築する。

エジプト人の海外出稼ぎは、70年代以降に国の経済立て直しにより、外貨の獲得が求められ、移民法が緩和されたことが契機となり、活発になった。この歴史的背景を調査対象者と接見する際の指標として、個々人の出稼ぎの来歴を探っていく。さらに、彼らの出稼ぎ先での日常生活の行動範囲などを探る中で、彼らが出稼ぎ先で作るネットワークを把握し、調査対象者を中心とした他の家族成員との関係性をライフヒストリーとして記述していく。

エジプト人の海外渡航は、アラビア語の通じるアラブ圏が、出稼ぎ労働者から研究者まで幅広いのに対し、英語圏がより高学歴の頭脳流出者が多い傾向にある。この両者を扱うことで、それぞれのネットワークのあり方の異同を分析できる。また、出稼ぎ者の傾向が異なるだけでなく、それぞれの出稼ぎ先国の環境や文化が彼らのネットワークに与える影響にも注目する。

3年間の現地調査は、研究代表者が面識を持つクウェートにいる出稼ぎ者をまず訪問すると共に、エジプトで、クウェートやカナダに家族・親族のいる調査対象者を探すことも行う。こうした過程で、それぞれの地にいる人間が自身のネットワークをどのような規模で構築しているかを探っていく。クウェートでの現地調査は、出稼ぎ者の来歴、仕事の獲得方法、現地での友人関係などを聞き、その行動範囲を整理する。また、彼らが、クウェートで、同国人同士で連帯するために、同郷者団体のような相互扶助団体を形成するかどうかも調査する。

カナダ調査は、モスクや現地のコミュニティセンターなど、インターネットにサイトを持っている団体に連絡をし、その責任者に接見し、そこから対象者を広げていく。

調査においては、それぞれの国での情報を他の国で確認し、様々な方向から、出稼ぎ者と彼らに関わる家族・親族、友人、知人の関係を理解していく。それは、収入格差の開きが90年代以降の構造調整計画による経済低迷で、社会の二極化が彼らの中で起こる中で、彼らが海外出稼ぎに何を求め、その社会資源としてのネットワークをどう活かそうとするかを見ることにもつながる。

そして、これらの国々での国境を越えて形成されるエジプト人出稼ぎ者の社会的ネットワークを、双方向からの多元的な民族誌と

して、記述する。

#### 4. 研究成果

3年間の本研究期間に、エジプトに2回、クウェートに4回、カナダに2回、各回それぞれ1か月ほどの現地調査を行った。これらの調査で得た知見としての研究成果は、それぞれの国別にまとめ、その後全体を総括を以下に記す。なお、下記は、調査の成果に関し、学会等で複数回発表を行った内容を中心にまとめたものである。

##### (1) エジプト

###### 調査概況

アレクサンドリア大学文学部人類学科のムハンマド・アッパース・イブラヒーム教授を訪れ、本調査の主旨を説明すると共に、調査協力のため、クウェート大学の教授の紹介を依頼した。また、クウェートまたはカナダへの出稼ぎ経験及び現在も出稼ぎをしている者あるいは家族・親族、友人、知人に持つ者を探した。

###### 調査報告と成果

エジプトにおいて、クウェートでの出稼ぎ経験のある複数名に接見し、同地での仕事内容などについて、聞き取りを行った。90年代に出稼ぎを経験し、帰国した者は、エジプトで新たな商売を始めている者が多く、数年間の資金を貯める目的が主であった。なお、出稼ぎ当時に未婚の者は、結婚資金を貯める目的もあった。

エジプトのアレクサンドリアにおいて、地方出身者が作る相互扶助団体である同郷者団体に関して、論文をまとめた。本論文はエジプトの国内移動を主に扱った成果であるが、同様の団体が海外で形成される可能性もあり、他国でエジプト人が同国人同士の交流をいかに持とうとするかの指標になると考えられる。

##### (2) クウェート

###### 調査概況

クウェート市内にて、現地の書店やクウェート研究センター(Center for Research and Studies on Kuwait)などを周り、資料の収集に努めると共に、いくつかの移民の多く住む地区を見て回ることで、現地の実情を把握した。また、クウェート大学社会学部人類学科のムハンマド・スレイマーン・ハッダード教授と面会し、クウェートにおける人類学の研究状況を伺い、エジプト人出稼ぎ者に関する情報提供を依頼し、学内で働くエジプト人秘書との面会を設定して頂いた。

###### 調査報告と成果

クウェートでは、7人の出稼ぎ者から滞在歴などの基本的な情報を入手すると共に、その中の何人から、さらに他のエジプト人を紹

介してもらったり、仕事を見せてもらったりといった協力を仰いだ。

その複数回での現地調査から、同国におけるエジプト人出稼ぎ者の社会的ネットワークは、家族中心な本国におけるネットワークとは異なり、仕事中心な関係を日常生活の狭い範囲で、同国人同士で構築する傾向が見られた。

それは、クウェートが、出稼ぎ者などの移住者に永住許可を出しておらず、定期的に就労ビザの更新を求めると、同国に永住できないことと関係している。就労ビザは、仕事先を通じて入手するため、仕事がなくなるとビザを更新できなくなる。そのため、クウェート内での人間関係は、仕事を中心とした一時的な関係が中心となり、むしろエジプトに残してきた自身の家族・親族との関係が維持される。

先行研究[Ghannam 2006]では、クウェートとエジプト間のエジプト人出稼ぎ者のネットワークは、彼らが本国とのネットワークを絶やさないことから、強固であり続けるとされたが、調査から、本人の現在における物理的立ち位置がネットワークのあり方に影響を与えることが解った。

つまり、出稼ぎ者がクウェートにおいて、ネットや電話などの通信手段を用い、継続的に連絡をとっていても、本国で起こる問題に対処できず、その影響力は限定的であった。これは、エジプトにおけるクウェートにいる出稼ぎ者の家族・親族成員への追跡調査から明らかになった。

クウェートにおけるネットワークは仕事を中心とした一時的に作られる関係が主になるが、長年クウェートで仕事を続けられる出稼ぎ者は、自身が仕事をする上で必要な情報を収集するネットワークを持っている。その際に、相手との間に「利益(ファイダ)」があるかどうか、重要とされる。これは、エジプトで家族を基盤に作られるネットワークとは正反対の価値観に依拠するものと考えられる。

ただし、大半のエジプト人出稼ぎ者にとって、クウェートでの仕事は、エジプトにおいて、自身の社会的ネットワークに頼って紹介されたものである。そのため、仕事上のネットワークは、新たな展開を持つことがほばない。

前述のように、クウェートは、一時滞在しかできないため、エジプト人出稼ぎ者は、クウェートで働き続ける上で、両国の往復を続けざるを得ない。しかし、それが、エジプトに家族中心のネットワークを作る反面、クウェートに仕事中心のネットワークを作る余地を生むのである。

出稼ぎ者は、往復の中で、両国に仕事と家族それぞれの役割を分けたネットワークを

持つことになる。それらは本人を基点として構築されるが、その影響力は、本人が不在となり、遠くにいるほど弱くなると考えられる。

つまり、国境を越えたネットワークは出稼ぎ者本人を中心に二つの場所で構築されているが、それらは本人が現在いる場所を中心に展開するものであり、その強度は、一定ではないということが解った。

今後は、展望として、こうした二つの場所をそれぞれ基点とするネットワークのあり方とそこに生きる出稼ぎ者の民族誌をまとめる中で、それが持つ意義を考えていく。それは、肯定的な視点だけでなく、エジプトにおいて仕事がないための経済的義務の重圧から逃れるため、あるいはクウェートでの賃金未払いなどの仕事上での問題や家族や友人のいない孤独から逃れるため、といった逃避を動機とした両国間の往復という可能性も検討する必要がある。より多くの出稼ぎ者との接見から、国境を越えた移動を主軸とした民族誌を執筆する。

### (3) カナダ

#### 調査概況

トロントではアラブ系移民の支援を行っている The Arab Community Centre of Toronto やエジプトに由来のあるコプト教会などを訪問し、カナダにおけるアラブ系またはエジプト移民の実態を調査した。

また、バンクーバーにおいては、ブリティッシュコロンビア大学の地理学科の Daniel Hiebert 教授を訪問し、同地におけるアラブ系住民の地区別人口分布について、詳しいデータの提供を受けた。このデータを元に、アラブ系住民の多く住む地区を周り、アラブ系の雑貨店などで簡単な聞き取り調査をするとともに、アラブ系のコミュニティセンターを発見し、訪問した。さらに、同地では、エジプト系の NGO の会長との接見を果たし、エジプト人が現地で団体に加入する意義に関して、貴重な知見を得た。

#### 調査報告と成果

カナダでエジプト人が急増したのは、第二次世界大戦後であるが、70年代に当時のサダト大統領が掲げた門戸開放政策の時期には、オイルブームの影響により、湾岸諸国へ行く者が多かった。その中でも、土地改革による農地没収やイスラーム主義の台頭により、エジプトの非カルケドン派のキリスト教であるコプト教徒が、多く海外へ移住した。カナダ全土には、コプト系の教会が多くあり、いくつかの教会を訪問した。

カナダのコプト教会は、1964年にトロントに司祭が招かれ、設立された。コプト教徒の大半は、エジプト人であり、カナダでも教会を設立し、独自の信仰を保持している。特に、日曜教会には、多くのエジプト人が訪れ、その場が彼らの親睦の場になっている。同様の

光景は、クウェートでも見られ、クウェート市内にあるコプト教会は、イスラーム教徒の多い同国で休みの取りやすい金曜日の教会が最も多くの信徒が集まる。そこで、エジプト人同士の交流が見られる。

カナダのコプト教会内では、カナダ社会の法制度に関する勉強会や2世以降の現地生まれの子供たちへのアラビア語教室など、信仰以外の活動も行われ、多くのエジプト人が利用している。日曜教会の後には、礼拝所とは別の部屋で簡単な軽食が出され、多くの信者が祈りの後に、お互いに交流を持っている。

カナダは、移民を自国の単なる労働力とみなすよりも、国の発展に貢献するような人材として移民を求め、移民法を制定し、移民数を管理してきた。カナダにおける移民政策は、多岐にわたり改正されてきたが、1967年に優秀な移民を人種に関わらず採用できるポイント制度 (point system) の導入を行ったことに特徴がある。

このポイント制度により、現在カナダにいるエジプト人は、その大半が様々な技術や資格を持った熟練労働者や、教育水準が高く、経済的な基盤の安定している者が多いと考えられる。

移民制度やカナダ政府が公開している統計情報からは、上記のようなエジプト人出稼ぎ者像が浮かび上がってくるが、実際は、彼らの子の2世や家族枠を使ってくるエジプト人など、多様な人々が存在する事実もある。

エジプトの知人を介して紹介されたエジプト人とトロント近郊で面会を果たしたが、彼自身は、カナダ在住のエジプト人2世と結婚してカナダで働いており、教育水準や資格の面で、ポイント制度の指標とは異なる形でカナダでの市民権を獲得している。彼からは、カナダで持つエジプト人同士の人間関係、職歴、他のアラブ諸国出身者や、エジプト人の結婚相手とその家族とのつきあいについて聞くことができた。こうした多様な移住経路を持つエジプト人がいるのもカナダの特徴である。

バンクーバーでは、カナダ在住のエジプト人が加入する団体 (Egyptian Canadian Cultural Society of BC) の会長とも面会する機会を得て、団体設立の目的や活動内容などをうかがった。この団体は、同地におけるエジプト人ムスリムの適応について論じた片倉もとこ教授の先行研究 [片倉 1989] でも紹介された団体の後継団体であり、1979年が初期団体の設立になる。

団体の活動は、会員同士の交流を重視しており、仕事の斡旋は行っていない。季節ごとに、宗教行事や交流の場を作り、同じ文化を持つ者と出会い、そうした場に自身の子供たちを連れて故国の文化に触れさせるといった活動が語られた。こうした活動は、政治

と距離を置き、宗教的な対立がない、エジプト文化を楽しむ会として、多くの人を結びつける活動を目指している、とのことだった。

この接見から、永住も視野に入れた人生設計を立てやすいカナダでのネットワークは、まず個人がカナダに来るまでに社会的地位が確立されている場合が多く、カナダでの社会的上昇よりも、自身のアイデンティティの維持に、ネットワークへかける期待を持っているように考えられる。

カナダにおける特徴は、単身出稼ぎではなく、家族を伴う挙家型移動が多く、子どもがカナダで教育を受ける場合があり、また一定の条件を満たせば、永住権の獲得もできるため、より長期的視野でカナダでの生活を考えられる点にある。

クウェートに比べると、将来的なエジプトへの帰国は、子どもの教育環境や帰国後の就職など多くの課題が挙げられ、明確に将来エジプトへいつ帰国するかを決めている者は少ない印象を持った。現在のカナダは、ポイント制度により、移住条件が厳格に定められており、誰でもカナダに出稼ぎに来られる環境にはない。その点で、エジプトにおける従来の社会的ネットワークが機能しにくいと考えられる。

#### (4) 全体的な総括と展望

クウェートとカナダ、両者のネットワークには、滞在する国の制度が大きく影響を与えることが解った。クウェートでは、仕事中心の社会的ネットワークが形成される一方で、エジプトに家族中心の社会的ネットワークを維持し、2つの場所のネットワークを使い分ける様子が、特に長期滞在者の中に見られた。

カナダでは、エジプト人同士の社会的ネットワークがそれほど緊密ではないながらも、保持されている。ただし、それは自身の社会的地位よりも、異国で暮らす自身のエジプト人としてのアイデンティティの維持をネットワークに求めていると考えられる。この問題は、一時滞在しかできなく、帰国が前提であるクウェートに比べて、永住権を獲得できるカナダでの子どものアイデンティティのあり方も結びつき、社会的ネットワークへの期待の変化が見られた。

エジプト人が構築する社会的ネットワークのこうした変容は、国境を越える移動の頻度と関係しており、他のアラブ諸国出身者の出稼ぎ事例に対して、一つの尺度を提供できる。同様に、エジプト人の海外出稼ぎにおける社会的ネットワークの研究は、まだ研究が少ない現状があり、今後、成果をまとめた論文の刊行が必要になる。

80年代以降のエジプトの経済状態は、常により良い暮らしを求めるエジプト人に、アラビア語が通じる湾岸諸国などのアラブ圏や

さらに機会があれば欧米への出稼ぎを、選択肢の一つとさせてきた。クウェートで働いている上エジプトの村出身の出稼ぎ者は、サウディアラビアとエジプト都市部のアレクサンドリアでそれぞれ働く兄弟を持ち、村で暮らす母親と末の弟へ生活費を送金していた。兄弟同士は、ネットで連絡を取り、近況を伝えあっている。エジプト人の中には、自身の家族・親族が湾岸諸国で暮らしている者も珍しくはなく、その行き来は定期的に続いている。

今後は、滞在する国によるネットワークのあり方の違いへの注目から、グローバル状況下での国民国家の枠組みにとらわれないネットワークのあり方を公共性の概念と結びつけて考察を行っていく。それは、社会的ネットワークが、具体的な動機を持って、それに関わる成員を動員し、その成員であるというアイデンティティが明確に意識化される過程を、単に国境を超える経験として捉えるだけでなく、その動機づけを公共という枠組みで考える必要があるからである。

#### <引用文献>

片倉もとこ 1989. 「異文化環境のアラブムスリム：ヴァンクーヴァーのエジプト人ムスリムの事例研究」『国立民族学博物館研究報告』14(4): 821-889.

Ghannam, Farha, 2006 “Keeping Him Connected: Globalization and the Production of Locality in Cairo,” In Cairo Cosmopolitan: Politics, Culture, and Urban Space in the New Globalized Middle East, eds. Diane Singerman and Paul Amar, pp. 251-266, Cairo: The American University in Cairo Press.

Zohry, Ayman, 2003. *Contemporary Egyptian Migration 2003*, International Organization for Migration, <http://www.zohry.com/pubs/CEM2003/CEM2003.pdf> (2016年6月3日閲覧).

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 1件)

岡戸真幸 2015 「エジプト都市部で同郷者団体が果たす役割と意義：アレクサンドリアのソハーグ県同郷者団体の事例から」『日本中東学会年報』31(1): 29-62、査読あり。

##### [学会発表](計 5件)

岡戸真幸 2015 「個人基点の多場所型ネットワークの構築：エジプトからクウェートへの出稼ぎ者の事例から」日本人類学会、5月30日、大阪国際交流センター

(大阪府大阪市)

岡戸真幸 2015 「カナダのアラブ系移民に関する予備考察：エジプト人移民を中心に」日本中東学会、5月17日、同志社大学(京都府京都市)

OKADO, Masaki 2014 "A Study of Egyptian Migrant in Kuwait and their Social Networks", The 10th Conference of AFMA "De/ Re-constructing Middle East Studies from Asian Perspectives: Towards the 20th anniversary of the AFMA" 13 December, Kyoto University (Kyoto, Japan) .

OKADO, Masaki 2014 "The Other Lives beyond the Egyptian Border: a Study of Egyptian Migrant in Kuwait", KIAS/SIAS Joint Workshop "Diverse Approaches to the Muslim People's Life: Sufis, Saint Venerators, and Migrants" 29 May, Sophia University (Tokyo, Japan).

岡戸真幸 2013 「エジプト、アレクサンドリアのソハーグ県同郷者団体が都市で果たす役割について」イスラム人口研究懇談会、12月13日、早稲田大学(東京都新宿区)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

岡戸 真幸 (OKADO, Masaki)

上智大学・グローバル・スタディーズ研究科・研究員

研究者番号：00634338